



Audible って素晴らしい。病気で入院してから 200 冊ぐらいは読んだかもしれない。

入院してる時にとても感動的だったのは田山花袋の「田舎教師」。もちろん芥川龍之介や宮沢賢治、夏目漱石の随筆などもよく読んだ。

夏目漱石はやっぱり素晴らしい。このごろは坊ちゃんに出てくる下女の老婆キヨに惹かれている。キヨは心の美しい人で坊ちゃんをととてもとても、それはそれは大切に思い、坊ちゃんもそれを素直に受けとめている。例えばキヨが坊ちゃんに 15 円お金を貸したとしよう。キヨはそれを「貸した」などと意識することはない、ただ坊ちゃんに良いことをしたいためだけにお金を渡すのだ。坊ちゃんはだからそれをただ単純に素直に受け止め、そのお金をキヨに「返さなくてはずい」とか、「返さないことに対してキヨが僕に対して何か思ったりするのだろうか」ということさえ思っはけないと思う。そのような善意そのもののキヨと坊ちゃんの関係が、なんだかとても懐かしく素晴らしく美しいと思う。さすが文豪の作品だけあって、楽しく いつまでも聴いて（読んで）いたい作品だ。



「坊っちゃん」は、日本近代文学の文豪、夏目漱石の初期の代表作。無鉄砲な性格の数学教師、坊っちゃんが、田舎の学校でくせものの教師たちに立ち向かう物語です。漱石の教師時代の経験をもとに書かれた作品とも言われています。今回は、「坊っちゃん」のあらすじや登場人物などを紹介しましょう。
<画像：道後坊っちゃん広場（愛媛県松山市）の坊っちゃんのキャラクター銅像>

キヨ：主人と下女でありながら、子と母のような関係

https://www.amorc.jp/202105141708_3026/

両親や兄から疎まれ、無鉄砲で曲がったことが許せない主人公。そんな主人公を「坊っちゃん」と呼び、誰が敵になっても絶対的な味方となってくれる存在が、実家の下女・清でした。

物語は主人公の教師としての生活の話がメインになりますが、その根底には清の存在の大きさが垣間見えます。主人と下女という関係を超え、まるで母子のようにも感じられる二人の関係の描写からも目が離せません。

Audible is amazing. I may have read about 200 books since I was hospitalized. The book that moved me the most while I was hospitalized was "Country Teacher" by Katai Tayama. Of course, I also read a lot of essays by Ryunosuke Akutagawa, Kenji Miyazawa, and Soseki Natsume.

Soseki Natsume is amazing. Recently, I've been drawn to Kiyoo in Botchan. Kiyoo is a person with a kind heart and cares very, very much for Botchan, and Botchan accepts it honestly. For example, let's say Kiyoo lends 15 yen to Botchan. Today, he doesn't think of it as "lending" it, he just gives it to Botchan because he wants to do something good. Therefore, Botchan should simply accept it honestly and not even think, "I have to pay it back," or "I wonder if Kiyoo will think something about me for not paying it back." I think the relationship between Kiyoo and Botchan, who are the epitome of kindness, is somehow very nostalgic, wonderful, and beautiful. As expected from a work by a great literary figure, it is a fun piece that you will want to listen to (read) for ages.